清水　第二二九号　目次

表紙題字・良慶和上筆　表紙写真・明治初期に「学校火消」を描いた絵馬 …… 2

特集　清水寺第107回うらぼん法話

「きのう・今日・あした」 …… 清水寺貫主　森　清範 …… 3

「茶の湯好日」 …… 茶道裏千家家元　千　宗室 …… 17

「京の食文化と私のこだわり」 …… 瓢亭十四代当主　髙橋英一 …… 22

「水への祈りから世界の平和へ」 …… 八坂神社宮司　野村明義 …… 27

「美との出会い、心を動かす体験」 …… 京都市立芸術大学学長　画家　赤松玉女 …… 32

大西良慶和上法話「般若心経講話」① …… 38

明治期の消防体制を描く貴重資料

絵馬「下京第二十二組学校火消図」修復　清水寺学芸員　坂井輝久 …… 46

『四十手深要決義』を読む　第26回 …… 清水寺執事　森　清顕 …… 48

『成就院日記』翻刻・刊行にあたって㉜ …… 清水寺史編纂委員　源城政好 …… 58

清水寺の新体制 …… 86

初の「清水さん秋まつり」 …… 90

千日詣り、八月の台風接近も無事結願 …… 91

南部風鈴、酷暑の夏に涼響かせ …… 93

困窮期に寄進　曽野嘉兵衛氏の子孫来山 …… 94

夜の舞台　「白鳥の湖」奉納上演 …… 96

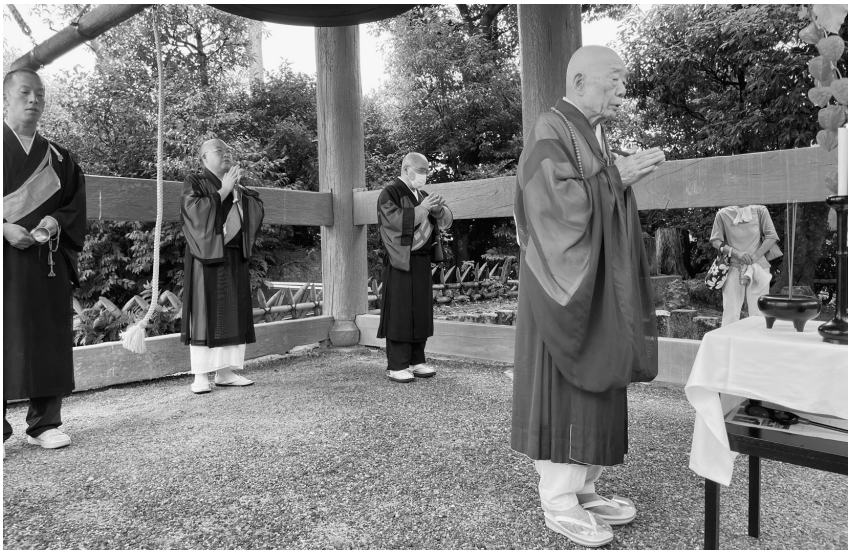
岩手県人会／那須音羽の会　ご縁深く …… 97

福島県支援　感謝の太鼓響く …… 100

復興再生祈り　森貫主が新設校で揮毫 …… 101

内外往来 …… 103

編集後記



長崎に投下された原爆の犠牲者を慰霊する法要。これに先立ち、８月６日には広島原爆の慰霊法要も営まれた（８月９日）

◆特集◆ 清水寺 第107回 うらぼん法話

京都では、七月から四〇度近い猛暑が途切れず、観測史上最も暑いと言われた今夏、恒例の清水寺「うらぼん法話」が、八月一日の開白から五日の結願までの五日間、大講堂の円通殿などを会場に開かれました。午前六時からの法話とはいえ、早朝から強烈な日差しが降り注ぐなか、いずれの日にも、熱心な聞法の人たちが清水坂を登って参加されました。

今回は、新型コロナウイルスへの感染防止対策を始めた二〇二〇年（令和二）以前の開催形式に戻り、講師の方々は、マスクを外して会場の人たちにそれぞれの思いを語りかけました。円通殿の椅子席は連日、早々に埋まり、モニター画面で視聴する洗心洞、円通殿の外のテント席も、円通殿に座れなかった人たちでいっぱいになりました。

法話会は、今年、没後四十年を迎えた中興開山の大西良慶和上が一九一五年（大正四）、暁天・涼風の法施として始めました。今回が第百七回です。今春に京都への文化庁移転が実現したことから広く文化を考える機会にと茶道、京料理、八坂神社、移転する芸術大学から講師をお招きしました。

開白の初日は茶道裏千家家元・千宗室師が「茶の湯好日」の演題で、二日は瓢亭十四代当主・髙橋英一氏が「京の食文化と私のこだわり」、三日は八坂神社宮司・野村明義師が「水への祈りから世界の平和へ」、四日は京都市立芸術大学学長で画家・赤松玉女先生が「美との出会い、心を動かす体験」とそれぞれ題して話しました。結願の最終日には、北法相宗管長・清水寺貫主の森清範師が「きのう・今日・あした」との演題で語りかけました。森貫主の法話は全文を採録し、ほかの四講師については要旨を掲載します。

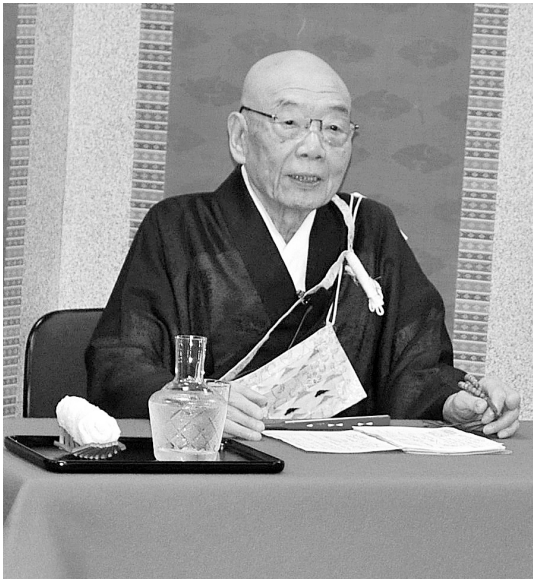
きのう・今日・あした

清水寺貫主　森　清範

百七回目の当山の「うらぼん法話」に早朝から皆さまお参りいただき、五日間ありがとうございます。お陰さまで今日は五日の結願を迎えることができました。

暑いですね。毎日三七度、三八度とあり、しかもまだコロナが終わっていません。皆さま、命懸けで出てきていただいたのではないでしょうか。

この「うらぼん法話」は大正三年に先師大西良慶和上が清水寺に晋山されて、翌年から始められました。当時は朝早くに開く法話はありませんでした。本山の興福寺貫首でありました和上が兼務住職で清水寺に晋山され、観音さんの教えを広めるという大きな課題に新しい布教方法として法話会を始めたのです。ですから、当時まだ暁天講座という言葉がなくて、経典の『盂蘭盆経（うらぼんきょう）』を講話するというので「うらぼん法話」の名前になったわけです。早朝講座の全国的な草分けになったのです。



法話する森清範貫主

このほか良慶和上は清水寺に晋山されて独りで全国を回られました。明治維新の新体制になって宗教界もすっかり変わってしまいました。清水寺も大変でした。「廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）や」「上地令や」と苦しんできて諸堂も痛みました。ようやく明治三十年に本堂が国宝に指定されて復興していきました。当時はボロボロだったのです。それを先輩方がなんとか修理して今日の形にもってきたのです。形は出来てきましたが、中身の観音さんの教えを広めるのはまだまだでした。それで当時の信徒総代たちが本山の大西良慶和上にお願いをして晋山していただいたのです。全国へ歩いて回り、日本のあちらこちらにも夏の講座を広げています。私が知っていているだけでも新潟、山陰、三重とあります。

京都市内各地で開いた暁天講座

京都市内にもたくさんの講座を開いておられました。中京仏教会とか、大雲院とか。この大雲院は現在、円山公園の隣にありますが、もともとは高島屋京都店の傍らにありました。市内の中心部ですから終戦近くになって疎開するというので、本堂の建物は智積院に移転し大雲院は更地になってしまいました。その間もなく敗戦となり新しい本堂を建て大きな本尊さんをお祀りしたのですが、さらに祇園閣が建つ現在地へと移りました。高島屋の傍らにあった時も、円山公園の隣に移転してからも、ずっと講座をやっておられました。

この東山の大雲院の近所では霊山観音でも良慶和上は暁天講座を開いていました。霊山観音は昭和三十年に開眼しました。大施主となったのは帝産グループ創始者の石川博資さんです。伊豆の大仁金山を採掘して財をなしました。戦後、英霊を供養したいとして、東には靖国神社があるけれども西にはないので、どこか良いところはないかと関西各地を見て回って、やはり高台寺近くの東山を背景にした所が一番いいと決まったそうです。「観音さんを造るのだったら、清水の良慶和上に相談しよう」というわけでお越しになられました。戦後間もないことですから「英霊供養とはありがたいことだ。観音さん造立、誠に結構や。大賛成で手伝わせていただきます」と

なりました。こうして霊山観音と深い交わりができました。

観音さんは彫刻家の山崎朝雲先生が造りました。山崎先生は高村光雲さんの弟子。光雲さんは詩人で有名な高村光太郎のお父さんですね。山崎先生の弟子には日本橋三越本店ホールの天女像を造った佐藤玄々さんがいます。このホールで私は何回か法話をしたことがあります。吹き抜けになっている中央ホールです。初めて法話するちょうどその時、薬師寺の高田好胤管主にお目にかかりました。それで「今度、三越で話をする」と言いましたら「向こうは話しにくい所や。街の真ん中で話すようなものや。まあ、頑張ってきて」と教えられました。確かに法話してますと、ピンポーンパーンと鳴って「誰それさまが、どこそこでお待ちです」と聞こえてきます。

それはさておき、観音さんを彫刻家先生の山崎さんが造るのですが、良慶和上は気に入りませんでした。彫刻家が制作する観音さんと拝む対象の観音さんとは違うというのです。意見が違い互いに論議を交わしたようです。和上は大徳寺に所蔵されている牧谿（もっけい）の白衣観音図のごとく、観音さんは上から下の私たちをやさしく見て、私たちは下からその観音さんを見上げる姿でないといけないというのです。

高台寺執事長の怖い老師

ともかくも霊山観音は良慶和上が出仕して開眼し落慶されました。観音前の駐車場広場では盆踊りもありました。芸者歌手の市丸さんを知っていますか。やってきました。青木光一さん、それから古賀政男さんも。古いですね。今年も霊山観音の暁天講座に行きましたので寺務局長さんに聞きましたら、小林幸子さんも来ていたそうです。きっと子役のころでしょう。とにかく当時は賑やかでした。

霊山観音が設けられるときは高台寺へ和上の使いで度々訪ねました。今なら宅配便ですませますが、当時はありません。しかし行きますと、顔を覚えてもらえます。高台寺の執事長に川本俊堂老師がおりました。塔頭の春光院の和尚さんです。怖い人でした。「こんにちは」と言っても返事が返ってきません。障子の向こうでガタガタ音がしてますから、い

ることはわかっています。どうやら機嫌が悪いのです。もう一遍大声で「こんにちは」と叫びますと、「一遍いうたらわかっとる」と怒られました。それなら返事してくれたらいいのにと思います。「誰や」と聞きますので「清水から使いに参りました」と答えますと「上がれー」の声が返ってきて、やっと中に上がらせてくれます。

そうかと思うと、ある日は「こんにちは」というと「今日は誰もおらん」と返事してきます。おらんいうても、そこで返事してますがな。それでも、あかんのです。今日も機嫌が悪いのです。しばらくしますと「誰や」と聞いてきて「上がれ。そこに座れ」と中に入れてくれます。そして自らお茶を入れ、奥に行って羊羹（ようかん）を持ってきて出してくれます。きっと小僧が来たら食べさせてやろうと大切に残していたのでしょう。戦後間もなくの頃は甘いものは貴重でした。厚く切ってくれます。美味しかったですね。これまた今年、霊山観音の寺務局長さんに聞きましたら、ある日、高台寺の霊屋（おたまや）を拝ませてほしいと言いましたら、「今日はない」と言われたそうです。「どうしたんですか」と聞きますと「博物館に行った。早く行け」という返事だったそうです。霊屋が博物館に陳列されるわけがありません。機嫌が悪かったのでしょうね。

良慶和上が始めた盂蘭盆法話、暁天講座ですが、これが終わりますと、お盆の季節になります。清水寺では千日詣りが始まります。一日のお詣りで千日分の功徳があるというので、昔からお籠（こも）りをしてお参りしました。このお籠りというのは二日も三日も本堂の中でお祈りをすることです。夏は暑かったろうと思います。反対に冬は寒かったでしょう。

お盆は先祖が帰ってくること

お祈りというのには、私は二つの形があると思います。一つは仏さんを祈る、もう一つは仏さんに祈るというのがあります。同じようですが、ちょっと違います。「仏を」というのは、仏さんに真心を込めて「ありがとうございます」「おおきに」と心底から感謝や喜びを言うことです。もう一つの「仏に」というのは、目的があります。現世利益を求めて